

第 2 回 氷見市総合計画審議会 会議録

| | | |
|-----|--|--|
| 日 時 | 平成 23 年 4 月 12 日（火） 13 時 29 分から 15 時 24 分まで | |
| 場 所 | 氷見市役所 第 2 ・ 第 3 委員会室 | |
| 出席者 | 委員 | 石出会長、上野委員、大引委員、小川委員、川上委員、越田委員、佐藤委員、杉木委員、竹内委員、田嶋委員、田中委員、土居委員、中川委員（代理出席：豊岡氷見警察署地域課長）、中本委員、七尾委員、西野委員、姫野委員、堀川委員、本川委員、松波委員、松原委員、村田委員、森委員、屋敷委員、山岸委員、横山委員（出席 26 名、欠席 3 名） |
| | 市 | 堂故市長 策定委員会（棚瀬副市長、前辻教育長、定塚企画振興部長、金谷総務部長、宮本市民部長、江添建設農林部長、西塚総務部防災・危機管理監、七瀬会計管理者、野議会事務局長、山崎教育委員会理事・教育次長、有島消防長） 事務局（桶元企画政策課長 外 6 名） |
| 次 第 | 1 開 会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 新委員等の紹介 5 議 事 (1) 基本構想の骨子の検討について (2) 部会の構成等について (3) これまでの取組みについて (4) 意見交換 (5) 事務連絡 6 閉 会 | |
| 資 料 | 資料 1 第 8 次氷見市総合計画の構成について 資料 2 第 8 次氷見市総合計画基本構想の骨子の検討について 資料 3 氷見市総合計画審議会部会名簿 資料 4 氷見市総合計画審議会部会の進め方について 資料 5 市長のまちづくりふれあいトークの主な内容について 資料 6 まちづくり研究研修について 資料 7 氷見市総合計画審議会委員名簿 資料 8 氷見市総合計画策定委員会委員名簿 資料 9 平成 22 年国勢調査人口速報集計結果 | |

1 開 会

[事務局]

- ・ 定刻となったので、只今から第2回氷見市総合計画審議会を開催する。
(欠席者等について事務連絡)

2 会長あいさつ

[会長]

- ・ 本日は、第2回目の審議会となる。ちょうど1カ月前、大きな地震、津波による大災害があった。被災された多くの方々に心からお見舞い申し上げるとともに、亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表する。
- ・ ふるさとである氷見のことに思いを致し、10年後の氷見を考える総合計画づくりに参画できた。
- ・ 私たちを育ててくれた「ふるさと」が重要なキーワード。大震災を機に、豊かな未来を、安全で確かな未来を築くという視点が大切。先人から受け継いだ歴史や文化、美しい自然環境など、豊かな氷見の地域資源を守り、いかに生かしていくかが問われる。
- ・ 今日の議題である基本構想は、計画の骨子となるものである。委員の方々はどうな未来を描いておられるのか、忌憚のないご意見を賜りたい。

3 市長あいさつ

[市長]

- ・ 本日は、大変貴重な時間をいただき感謝申し上げます。東日本大震災で被災された、或いは亡くなられた皆様に対し、心からのお見舞いとお冥福をお祈り申し上げます。市としても、微力であるが、給水車・消防士・保健師等を被災地へ派遣している。市民の皆様からも支援の輪が広がっており、本当にありがたい思っている。また、14日から救援隊の皆さんと共に、私も含めた市の職員で、気仙沼を中心に訪問させていただきたいと思っている。行政の長として、市民を守ること、災害対策の大事さを肌で感じて帰ってくる。決して他人事でも、同情心からでもなく、全国でお互いを助け合う中から国づくりをする、その一翼を担うためにも、市民挙げてご支援の輪を広げていきたい。

- ・ 1月31日の第1回審議会で、「6万人定住・200万人交流」、「新世紀の挑戦」という題目については、「200万人交流は可能性があるが、6万人は無理ではないか」とか、「もっと人口減対策をしっかりとやれ」というお考えも多かった。その通りだ。たいへん厳しい環境の中だが、安心・安全なくらし、住民相互の助け合いなどから生まれてくる心のゆとりとあたたかみを感じるまちづくり、或いは質の高い市民生活の実現などが大きな柱になる。
- ・ 今年、寒ぶり豊漁が全国ニュースになった。産地偽装などもあったが、やはり氷見は、「食」に関することは大事な切り口。もっと磨いて、全国に発信していくことで、全国ブランドのまちに一步でも近づいていけないのではないか。それにより、交流人口の拡大に結びつき、あらゆるまちの元気さにつながる。
- ・ 津波対策や、原発から21kmの距離、原発対策なども大事な視点。
- ・ 本日は、基本構想の骨子を検討する。よろしくご審議をいただきたい。

4 新委員等紹介

(3名の新審議会委員、新策定委員会委員を紹介)

5 議 事

(1) 基本構想の骨子の検討について

(事務局より、「資料1 第8次氷見市総合計画の構成について」及び「資料2 第8次氷見市総合計画基本構想の骨子の検討について」の説明)

[会長]

- ・ これより審議に入りたい。何かご質問、ご意見等は。

[委員]

- ・ これが全部実現したら、たいしたものだ。これを、どういう形でまとめていくか。これから10年後、その間どう情勢が変わるかわからないが、あまり将来を悲観せず、前向きに捉えたい。

[委員]

- ・ 文章の中で、「元気」とかいろいろあるが、女性をターゲットにすると、「きれい」という言葉がウケるそう。氷見の「きれい」を育てていく。例えば、立山・海もあれば、心や料理とかも。「きれい」を氷見として打ち出せばどうか。

[会長]

- ・貴重な新しいご意見だ。

[事務局]

- ・我々行政マンと違う角度から見ていただき、この後検討してまいりたい。

[委員]

- ・基本理念の案について、「これまでの歩み」は具体的に書かれていて理解しやすいが、「これからのまちづくりの考え方」としては、具体的なものが見えてこないの、もっとはっきりと書いた方がいい。
- ・「集落機能の低下」とあるが、旧の村を一くりにすることと理解していたが、これからやっといこうとする前向きな姿勢を、もっと具体的に書けばどうか。
- ・「自己責任で克服していく」という表現より、「まち」の基本理念なので、「まち」でこのように進めていくと言うほうがいい。

[事務局]

- ・ご意見については、3点合わせて内容全体を吟味して修正をかけていきたい。

[会長]

- ・本テーマは、総合計画の本当の土台となるので、もう少し何かご意見は。

[委員]

- ・7次・8次の計画を見ると、施策には、地域のニーズ・課題に対応する点ではそんなに違いは出ない。その時の社会の状況、法の改正等、重点施策には時代背景が特徴となると思う。施策は、市民生活を考えると、妥当なものがあがってくる。この後3～5年間の氷見の社会の動きを考えると、災害対応が主眼になるのではないか。特に、原子力発電所から21kmというのは、関心が高いところ。
- ・基本理念に掲げられている「集落機能の低下」は、全国的な問題。地域福祉を考える中でも、特に地域の高齢者に対応するしくみをどうするかが全国的に論議されている。中には、高齢者自体が少なくなり、村落をどうやって閉村するかという話題もあり、セミナーやフォーラムを企画するところも。そういう事態にならないように、山手の人たち、高齢者の居宅生活には、どういったしくみが必要か考える必要がある。

[事務局]

- ・ 3～5年の災害対応、原発に近いことを総合計画にどう反映させるか、また集落機能が低下し、村を閉じざるをえない事態に対し、生活を続けていくためにどのような対応が必要か、この2つとも大事な取り組みと受け止める。今後、皆さんにご意見を賜りたい。
- ・ 重点プロジェクトの1番目の「防災・安全ネットワーク構築プロジェクト」には、災害への対応・安全な生活の確保には何が必要かを横断的に取り入れていきたい。
- ・ 集落機能低下に対しては、身近な地域の単位で、福祉のみならず、助け合いが行われてきた。さらにこれらを旧村単位に広げて維持していくことなどを、プロジェクトでまとめていきたい。重点プロジェクトは、この先、部会で審議していただきたい。

[委員]

- ・ 10年後の氷見を想像するのは難しいが、こうあってほしいという姿はある。子ども・女性・高齢者が元気に暮らせるまちづくりに力を入れて行ってほしい。基本理念の「これからのまちづくりの考え方」の中で、「安心して子どもを産み育てることができる環境の整備に努める」というが、抽象的でわかりにくい。新しい病院がオープンするが、氷見市になかなか子どもを産めるところがないというのはどうか。これらを含めて計画を立ててほしい。

[事務局]

- ・ 確かにトータルで抽象的な表現。安心して産める医療機関の整備は、今後計画を策定する上で、医療の充実として十分検討してまいりたい。委員には「次世代育成支援行動計画」策定にも参画いただいた。産まれた後のケア、幼児期・小中学生・高校生など、それぞれの世代にきめ細かく対応して、親も安心して産み育て、仕事もできる、トータルな支援策を盛り込みたい。

[委員]

- ・ (PTAの) 皆さんと、どういうことを提案するかとよく相談する。重点プロジェクトを見せていただくと、(教育に関することは、「いきいき生涯スポーツ振興プロジェクト(子どもの体力向上、競技力向上等)」しかなく、) 乱暴な言い方だが、元気で運動さえできればいい子どもづくり、と見える。PTAの考えは、「子育ては、家族が育て、学校が鍛え、地域が研ぎ、行政が見

守る」というスタンスである。運動だけでなく、学力も氷見市が1番であってほしい。当たり前のことで載っていないのかと思うが、そういうことにも触れていただきたい。

今度5月の総会にもこれを議案に挙げ、どういことを氷見市に話し合っていくか、ディスカッションをする。5月22日にPTA版のまちかどトークをするので、親の意見を反映させればどうか。重点プロジェクトに、子育てする親がとび付くような、わかりやすい項目がほしい。

[会長]

- ・重点プロジェクトについては、今後各部会で深めた議論をする場もあるかと思う。
- ・骨子については、8次計画の構成について、第1章から第6章までということで、まずご了解を得たとする。
- ・基本理念については、貴重なご意見・修正案等を踏まえながら、今後は部会等で論議を深めるが、その際の前提・共通認識として、ここにある基本理念や基本目標がある。ひとまず第2回審議会でこれらを決めたこととする。今後論議を深めていく上で、修正すべき点があれば、修正していく。
- ・重点プロジェクトについては、あくまで事務方の素案であり、これらがいずれできるようになるということ踏まえてやっていただくことで、次の議案に移りたい。

(2) 部会の構成等について

[会長]

- ・資料3は部会の名簿であり、所属委員については、私の方で指名するというのが前回の決定であり、事務方と相談の上、このようになった。部会長等も独断で恐縮であるが、指名させていただいた。

(各部会長、副部会長を紹介)

- ・ご了承いただきたい。よろしければ、資料4について、事務局より。

(事務局より、「資料4 氷見市総合計画審議会部会の進め方について」説明)

[会長]

- ・当審議会で審議したことは、3つの部会でさらに専門的に審議を深める。部会

のあり様は大事になる。何かご質問・ご意見は。

[委員]

・だいたいの日程はどうなるのか。

[事務局]

・各部長・副部長と相談の上、決定したいので、今しばらくお時間をいただきたい。

[委員]

・部会とは（何を審議するのか）？ 重点プロジェクトとの関係は？ 部会のアウトプットは、重点プロジェクトなのか。

[事務局]

・各部会では、所管事項について後日、事務方でまとめたそれぞれの分野の課題・なすべきことなどを、資料としてお示ししてご審議いただく。関係する重点プロジェクトも含めて、より良いものにしてまいりたい。

[委員]

・実際にやるのは重点プロジェクトではないのか。この流れとして、目標を出して、アウトプットとしての部会の議論は重点プロジェクトということでは？ 部会で目標数値まで出すのか、何をアウトプットするのかよくわからない。

[事務局]

・重要な課題を例示して、アウトプットとしては、資料にお出しした施策の体系等についてご意見をいただく。これを横断的にまとめていくと、重点プロジェクトとして集約されていく。

[会長]

・計画の構成は6章。重点プロジェクトはその最後の章に出てくる。具体的な施策の考え方、内容は4・5章に出てくる。これらの議論が終わった上で進め、重点プロジェクトに行く。重点プロジェクトについても、あくまで素案なので、ご審議いただく。

[委員]

・各部会をまたがるテーマについてはどう対応するか。例えば、小児保健について取り上げると、「人づくり」の「子育て」部会にも該当するし、「暮らしづくり」の保健・医療にも該当する。

[事務局]

- ・確かに部会をまたがるテーマは、特に「人づくり」「暮らしづくり」にある。どう調整するかはまだ具体的にイメージを持っていないが、部会相互の情報交換を最低限行い、その後事務局でまとめていきたい。

[会長]

- ・必要があれば総会で調整する方法もあるが、その前に部会相互の調整があればいいと考える。

[委員]

- ・時間が取ればいいが、皆さんお忙しいので、全体会で協議する時間があってもいいのではないかと。対応をお願いしたい。

[会長]

- ・私たちにも相談していただいて、臨機応変にやっていきたい。

(3) これまでの取組みについて

(事務局より、「資料5 市長のまちづくりふれあいトークの主な内容について」及び「資料6 まちづくり研究研修について」の説明)

[委員]

- ・(研究研修の)発表内容は、文章にまとめて記録してあるか？

[事務局]

- ・内容は、発表時に使用したパワーポイント資料で、要点だけまとめたものを残してある。

[委員]

- ・かなりの準備をしたものを、折角なので文章化して記録として残した方がいいと思う。後の人の参考にもなる。

[副市長]

- ・ご関心を持っていただき、ありがたい。若手職員は、昨年からは市長と市政を語る会なども行っており、第2弾としてこの研修会を行った。私は4日間のうち2日出たが、部局を越えて一つのテーマに取り組んだという体験は、職員にとっては非常に意義深かったかと思う。中身については、若干、出来に優劣はあるが、試みとしては良かったかと。これを機に、若手職員には積極的に声を出

してもらい、できるだけ市政に貢献させたい。せつかくなので、簡単なまとめをさせる。

[委員]

- ・ (1)のEグループなどの「少子化対策と人口減対策」について、提言の内容が知りたい。若い職員の話し合いの内容がわかればいいなと思う。

[事務局]

- ・ 後ほど簡単にまとめた資料をお示ししたい。大部なものなので、できるだけコンパクトにまとめたもので。

[委員]

- ・ 研修について、若手職員が提言したものを利用して、重点プロジェクトの優先順位がつけられたらいいのでは。今、一番望まれていることは生活。いくら景観がよくなったとしても、観光客が安心して出かけてきたり、住む人が安心して住めないところでは困る。特に今、災害の後で、ペットボトルやカップ麺の個数制限など、氷見市にも影響があり、若者、若手職員の意見も変わってきている時だと思うので、こういう研修は適度に回数があったらどうか。

[委員]

- ・ 若手職員の研修については、新聞で読んだ。その中で、「市をコンパクト化」するというのがあった。氷見市内に過疎地、廃村に追い込まれる所はどのくらいあるのかわからないが、過疎化というのは人口流出により生活維持ができない状態をいうと思うが、その中で生活行政サービスが行き届かないとか、将来的に水道管の入れ替え時期にもかかわる。「市のコンパクト化」というのはすばらしい意見。できたら「コンパクト化」も織り込んでほしい。

[委員]

- ・ グループ討議の過程で、大きなものを動かすときのいいアイデアがたくさん転がっている。発表内容だけでなく、話の端々に転がっていたものも拾い集めれば、役立つかと思う。なかなか30歳以下の人の意見を聞く機会がないので、貴重な資料だと思う。

(4) 意見交換

[会長]

・なんなりと、ご自由にご発言を。

[委員]

・震災で気になったのだが、以前に津波が来たときのためのマップをいただいたが、今回の場合、想定外だったという。あらためて防災マップは是非必要。

[防災・危機管理監]

・ハザードマップについては、平成16年に土砂災害・水害を含めて作られたものであり、津波も網羅してはいた。今の状況を受け、氷見市地域防災計画も、今後、県・国の計画変更も見極めながら、平成23年度に策定する。

[委員]

・基本理念の中に、「質素な中にもささやかな贅沢を享受し」というくだりがあるが、決して悪い意味ではないと思うが、震災もあつてますます不景気で、「元気づくり」というイメージではない。

[委員]

・同じで、「質素な中にもささやかな贅沢を享受し、心のゆとりと温かみを感じることができる」真に質の高い市民生活の実現に努めていきます。」というのは、確かにいいことだと思う一方、これはどういうことだろうと感じた。古き良きものを見直して再生していくのは大事だが、もう少し未来志向で、古いものは取り入れながらも、技術・テクノロジー・情報など、革新していくものも氷見市には必要でないか。

・基本目標（施策の大綱）に4項目あるが、3部会しかないが、「(4)持続可能な行政経営の確立」は、行政が部会になるという認識でいいのか。

[市長]

・以前、「シンプルなものでも満足できるし、豊かな贅沢なものを嗜む、わかる、その幅が「豊かさ」ではないか」という言葉を私がどこかで使ったものを引用している。あまり適切な表現ではないので、もう少し言い方に変えるようにしたい。

[事務局]

・大綱の他の3つの内容はこれからも煮詰めていく必要があるが、こちらで想定しているのは、「4」は行政経営に関することが大部分になるので、事務方で、行政のあり方、持続可能な行政体の構築、この計画を作るに当たっての行政の役割、姿勢などを、ある程度まとめてお示しするのがいいのかなと思っている。

次回の審議会には、案としてお示しして、皆さんからご意見をいただきたいと思っている。市民生活に視点をおいた計画づくりということで、3つの部会（目標）を設定したので、これも含めてご意見いただきたい。

[委員]

- ・審議会では、民間の声も入るのでそれでいいが、行政経営の内容であっても、民間の視点をぜひ入れて。

[事務局]

- ・今回の計画では、協働の視点が大事。市民、企業、様々な団体の協力をいただいて、行政のひとりよがりにならぬよう、皆さんの意見を取り入れたい。

[委員]

- ・ハザードマップは平成23年度中に策定するというが、早急にしたい方がいい。多分前回のときはあまり関心がなかったと思うが、今だから市民の関心も深まるし、しっかり見る。私も自分の避難場所までは遠いので、早く確認したい。

[防災・危機管理監]

- ・地域防災計画とハザードマップは少し違っており、ハザードマップは土砂災害を含めた避難場所等を図面にしたもの。地域防災計画は平成22年に原子力編を追記したもの。平成22年度に素案として練り直してきたが、東日本大震災を受けて、県でも今までなかった津波に対するマップを作るという話も聞いている。国・県などの上位計画を見極めながら、平成23年度中に早急に詰めていきたい。

[委員]

- ・これからのまちづくりにおいて、小中学校や県立高等学校の統廃合が進み、人の流れ・若者の流れがどうなるのか。若者の意見は、市長も新成人との討論会などをされているが、若者が氷見市に何を望んでいるのか。愛する氷見に対し、子どもたちは何を望んでいるかを踏まえながら、まちづくりを考えていかなければならない。「ふるさとを愛し、次代を担う人づくり」を考えるならば、進路や他いろいろな問題、大きな課題が残っている。それらを踏まえた調査をしていただきたい。

[会長]

- ・今後、各部会で議論を深めていただきたい。予定の時刻も近づいているので、

意見交換はひとまずこの辺に。

- ・内容へのご意見・ご質問は企画政策課でいつでもお聞きするので、何かあればご連絡いただきたい。

(5) 事務連絡

[事務局]

- ・3つの部会について、4月20日から5月13日の間に開催したい。日程については、会長・副会長・部会長・副部会長とご相談の上、ご案内申し上げます。
- ・次回の審議会では、各部会での意見を反映させた、より成文化した形で、基本構想（案）をお示ししたい。期日は、部会の進捗状況を踏まえ、会長・副会長とご相談の上、日程をご案内申し上げます。さらにご意見・ご提言をいただければ幸い。形式は自由で、メール・ペーパー・電話等どんな形でも、事務局で随時承るので、ご協力をお願いします。

6 閉会

[会長]

- ・次回の日程については、今ほど事務局の説明にあったとおり、関係の先々と相談の上、後日連絡する。
- ・本日はご多忙の中、貴重な時間を割いて熱心なご意見をいただき、感謝申し上げます。